

電気・水素スタンド追加

環境車の普及にらむ

高圧ガス責任者3倍へ

新東

溶接材料販売の新東（本社岡崎市錦町4の17、鈴木康春社長、電話0564・21・2255）は、次世代車向け燃料供給インフラを整備する。ガソリン車から電気自動車など環境対応車への普及をにらみ、2015年までに既設の天然ガスステーションに加え、電気、水素スタンドを立ち上げる。高圧ガス責任者も3倍に増やす考えだ。



成長分野に着手する新東（本社）

同社は、岡崎市内2カ所でガソリンスタンド（GS）を展開。03年、錦町のGSに天然ガスステーションを併設している。15年をめどに同GSに電気と水素の供給スタンドを追加。需要をみながら溶接材料の営業拠点を持つ豊田や豊橋にも同様の複合スタンド開設を検討する。

自動車メーカー各社が15年をめどに燃料電池車を本格的に普及させる姿勢をみせており、今後は電気、水素供給スタンドの需要が高まると判断した。複合GSスタンドの多数店舗展開に向けて、保安面をサポートする人員を拡充する。将来を

見据え、高圧ガス製造・保安責任者を現在の3人から9人程度に増やす計画だ。メイン事業は溶接材料や産業機器の販売で、00年と07年には自動車産業が集積する東

北と九州にも営業拠点を開設した。しかし、景気悪化を背景に受注が低迷していることから、成長分野に着手することで収益の底上げを図る。2009年9

月期売上高は32億円。